

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 四季の郷

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500062		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホーム 四季の郷		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ケ崎町西根北荒巻21番地19		
自己評価作成日	令和5年1月21日	評価結果市町村受理日	令和5年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員全員で作成した四季の郷理念を元に、愛情を持ってふれあい共に過ごす。やすらぎ、やる気を引き出し、健康でいられることを念頭に置き支援しています。職員が情報を共有し、協力し合いながら利用者によりそい、安心した生活を送って頂けるように支援しています。  
 ・自家菜園で収穫した野菜を味わい、喜びと楽しみ、そして季節の移り変わりを共有しています。  
 ・利用者一人一人の身体状態を把握し、主治医、看護師、家族に報告、連絡、相談をして健康に過ごして頂くように取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東北本線六原駅や県南運転免許センター近くにあつて、隣接する同法人の特養やデイサービスセンターと連携して運営されている。3年前に全職員が参加して作成した理念を「愛情を中心に安らぎなどの5つの花びら」で表現し、実践場面で生かされ丁寧な介護支援が行われている。また町内のかかりつけ医等から月2回の訪問診療を受けており、看取りの際もかかりつけ医の協力を得るなど、医療との連携が図られている。コロナ禍で外出は制限されているが、オンライン面会に取り組み、LINE登録家族が6割に達しているほか最近ではブログも開設した。食事は利用者の好みを聞きながら工夫した献立を提供しているほか、毎年恒例の「回らない寿司」のイベントを企画し、利用者の笑顔と楽しみを大切に運営されている。災害対策として、夜間の火災を想定し、薄暮時に夜勤者を中心に訓練を実施した。昼間を想定した訓練では、同法人の職員の応援も得て発災時に近いものとなっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年3月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、愛情を持ち共に過ごす、ふれあい、安らぎ、やる気を引き出し健康でいられるように支援することを心掛けている。日常のケアについて、振り返りを行っている。	3年前に職員全員で作成した理念を玄関や事務室、スタッフルームなど職員の目に触れる場所に掲示し浸透を図っている。事業所の利用者支援の基本として、理念を「愛情を中心に安らぎなどの5つの花びら」で表現し、毎月開催する職員会議で唱和する他、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地元高校野球部の雪かきボランティアが来訪し、交流を行っていたが、今年はコロナ禍のため行うことができなかった。利用者の楽しみになっているため、今後とも継続したいと考えている。	コロナ禍で地域との交流が制限される中、自治会長が町の広報誌を届けてくれたり、近所の人や利用者家族から野菜・果物・柿等の差入れをいただいている。地元高校の野球部員による雪掻きボランティアは今年は中止としたが、愛着を感じて練習の様子を見に行く利用者もいる。状況を見ながら、コロナ禍前に駐車場で実施した「さんま祭り」などの地域との交流イベントを再開させたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での取り組みを通して認知症の理解について地域の方への発信方法を考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面で運営推進会議を行っている。利用者状況や行事や日常生活の様子を写真で伝えている。委員の方より意見や助言をいただき、支援に生かしている	今年度はコロナ禍で、書面会議1回のみ開催となった。内容は、運営、入居者の状況、行事のほか、数年ぶりに利用者・家族に対して実施した満足度調査の結果報告を行った。委員は、利用者と家族、町の保健福祉センター職員、自治会長や2人の民生委員、近隣住民代表で構成され、質問や要望等が寄せられている。	地域に開かれた事業所として運営推進会議が果たす役割は非常に大きいことから、開催頻度を確保するとともに、会議で出された質問や要望への回答についての取組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の職員が運営推進委員となっている。利用者状況や活動について報告し、幅広く情報や助言をいただいている。利用者についての、情報や意見をいただいている。	町の保健福祉センターの職員が運営推進委員として参加している他、介護保険担当課とは要介護認定申請やコロナ禍でのマスク等の支給を、地域包括支援センターとは情報交換や様々な相談を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し、身体拘束について職員会議などで、確認をしながら支援をしている。	法人として身体拘束廃止に関する指針を作成している。3か月に1回、法人主催の身体拘束廃止権利擁護委員会に事業所からも1名参加し、その結果を職員会議で共有している。スピーチロックについては、理念に立ち返り優しい言葉遣いに努めている。玄関は防犯のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修会を実施しており、職員の意識を高めている。職員会議で、日常支援の中での言動について振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修会を実施しており、権利擁護と成年後見制度について理解を深めている。利用者の尊厳を尊重し、利用者本位の支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際はわかりやすく説明し、不安や疑問点などを伺い、ホームでの生活や支援について説明し納得していただいている。料金用の改定時には文書で通知し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所時に日常の様子を伝えるとともに、意見や要望について伺い、支援につなげている。また、利用者からの希望があったときは、可能な限り対応できるようにしている。	毎月、各利用者の日用品等を届けてもらう際に、玄関先で要望や意見などを聞いているほか、数年ぶりに利用者家族に満足度調査を実施できた。調査結果は概ね良好で、結果を職員で共有し今後の介護支援に活かしたいとしている。玄関への職員写真の掲示や、台所仕事や居室内の清掃を利用者も職員と一緒にやる事は、利用者家族の要望を反映させたものである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務について職員からの意見・要望が出ており、職員会議や連絡ノートを活用して意見交換を行い対応している。 毎月の運営連絡会議で、さらに検討し運営に反映している。	毎月開催される職員会議や申し送り用の連絡ノートで職員の意見や提案を把握している。職員の提案を具体化した例として、リハビリパンツの帕特交換頻度の検討、破損した水道栓の迅速な修理、夜勤者ための防犯カメラの設置などがあり、意見の反映が職員のモチベーションの確保にもつながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得制度を整備し、職員が個々に目標を持ち、達成に向けて活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に参加出来るように配慮している。研修後は習得した知識を、業務に活かせるようにしている。苦手な所や気が付いた所はアドバイスや指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に、情報交換や取り組みについて参考になっている。コロナ禍のため今年度は機会がない状態となっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族より不安な点や要望などを伺い、情報を得ている。他の施設職員からも情報を得ている。入居後は職員で情報を共有し、寄り添いながら、安心して生活していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の話し合いで家族より困っていることや、不安要望などを伺い、支援に取り入れて、安心してサービスを利用できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の話し合いの中で、本人家族の要望を把握し、今必要なサービスを提供出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの持っている力を把握し、共に生活し寄り添いながら信頼関係を築いている。		

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した際には、最近の様子や体調などを伝えている。また、要望や更に生活歴などを伺いサービスに取り入れ、本人が穏やかに生活出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚の方の窓越し面会、オンライン面会があり、関係の継続が図られている。花見のドライブでは、利用者の自宅近くを通りかかると、喜んでいる様子が見られた。	家族等との窓越し面会のほか、オンライン面会に取り組んでいる。LINE登録している家族が約6割おり、利用者の写真等を送っているほか、事業所のブログも開設している。ドライブでの外出の際は利用者の自宅近く等の馴染みの場所をコースに入れている。理容師の来訪が定期的であり、ほぼ全員が利用し新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いが円滑に行われるよう、職員による会話の橋渡しや話題の提供を行っている。また年齢や身体状況、趣味嗜好に合わせ席の配置に気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの関係性を保つため、気軽に相談や支援が出来るよう伝えている。また、転所先にも本人の様子、意向を伝え安心して過ごして頂けるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当制とし、日々の生活の中で会話や表情、職員や他利用者との交流や生活の様子などを観察、把握し、生活歴や家族、他施設の担当者からの情報を基に、本人の意向に沿うようにミーティングを行い情報共有している。	研修で学んだ「課題整理表」を活用し、利用者それぞれの思いや意向を把握し、内容を各職員が書き込み、全職員が職員会議での情報共有に努めている。現在は意向把握が困難な利用者はいないが、職員は日々の会話や表情から、思いや希望を把握するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、親せき、地域の方、それまで利用していたサービス事業所から情報収集し本人や面会時家族等とコミュニケーションをとるようにし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々健康チェックを行い、心身状態の把握に努めている。また、機能低下を防ぐため自分で出来る事は行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を伺い、課題や問題について職員や家族、他職種に相談して、意見をいただいている。職員会議で状態、状況について話し合い、介護計画を作成している。	職員が協力して作成する「課題整理票」に基づき、計画作成担当者が介護計画を作成し、3ヵ月毎に目標達成状況を点検し、その後、モニタリング評価により6ヵ月毎にプランの見直しを行い、利用者、家族への説明・同意を得て決定している。理念に基づいた介護計画の作成を目指し、職員会議で情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、実践したケアについて個別に記録している。また、職員会議等で情報を共有し、検討を行い、支援計画に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況、いま必要な支援について対応できるように、話し合いを行いながら取り組んでいる。緊急時の通院対応や、看取り支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館より定期的に図書配本サービスを受け、本に触れる機会となっている。利用者の楽しみの一つとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を受けている。体調に変化があったときは、連絡し、指示を得ている。また、体調が悪化した際は往診対応していただいている。家族の意向を把握し、医師に伝えている。	現在の入所者8名中7名が町内の診療所の月2回の訪問診療を受診している。診療所は相談や往診にも快く対応していただき、管理者は医療連携体制が十分に確保されているとしている。日常の健康管理は、事業所や法人所属の看護師が対応し、薬剤師も訪問してくれている。その他のかかりつけ医受診や歯科、皮膚科等の受診は家族に同行をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態について共有している。体調に変化があったときや急変時には看護師に報告、連絡、相談し、指示を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は医療機関に情報を提供している。入院中も関係が途切れることが無いよう病院を訪問し情報交換している。また、家族の要望、相談に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化、終末期について説明し同意を得ている。看取りの際は医師、看護師に指示をいただき各職種が連携して支援している。職員の精神的サポートとして情報共有とコミュニケーションを増やし職員全員で取り組んでいる。	重度化に関する指針や看取りに関する指針に沿って、入居時に利用者や家族に説明し同意を得ている。今年1名の看取り支援を行った。開設以来5、6名の実績があり、かかりつけ医による家族への丁寧な説明や法人所属の看護師の協力により、連携して取り組んでいる。看取り後は職員の心のケアに配慮し、職員全員で振り返りを行い、思いを共有することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習会でAED使用について確認し、冷静に行動できるように努めている。急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間、昼間を想定した火災訓練を実施している。隣接の法人事業所と合同で行っている。夜間想定での訓練では、課題について話し合いを行っている。また、地域のためハザードマップを利用者と確認している。	町のハザードマップで浸水想定地域や土砂災害危険地域となっていない。隣接する法人の事業所と一緒に年2回の避難訓練を実施している。昼間を想定した訓練は消防署立ち合いのもと、実施した。法人内の通報訓練により、利用者の見守りに法人本部職員の応援を得ている。夜間想定訓練は、薄暮時(18時半)に夜勤者を中心に実施した。災害用の備蓄は十分確保されている。	薄暮時に夜間想定火災避難訓練を実施したことは大きな前進である。今後、職員だけでなく利用者や事前に了承を得ている運営推進会議委員の参加を得て実施するなど、次のステップを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生い立ちや生活歴、日々のコミュニケーションから利用者の性格を理解し、一人ひとりに合わせた支援を行っている。その人らしさを尊重し、日常の言葉遣いについても尊厳を持ち同じ目線で対応している。	理念に掲げる「愛情をもってその人らしさを大切にしたケア」を実践している。利用者に対して「さん」付けで話しかけるなど、利用者の目線に合わせて、威圧感を与えないように配慮している。居室の入口に暖簾を掛け、プライバシーの保護と安全に配慮している。トイレ誘導や失禁の際は、「よろしいですか?」と声掛けして了承を得て、自尊心を傷つけないような介助を行っている。	
----	------	--	---	---	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の体調や表情、コミュニケーションの中で気持ちに寄り添いながら、意思決定できるように声かけを行っている。話すことが苦手な利用者には閉じた質問で意思表示できるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間、できる限り個人のペースに合わせている。様子や会話からやりたいことを把握し家事仕事、キーボードや歌詞カード等提供し楽しみながら生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみを整えられるように蒸しタオルやブラシ、髭剃りを手渡したり、声かけを行っている。必要に応じて介助している。化粧をしてあげた時は、生き生きとして表情が明るくなった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きご飯、麺とそれぞれ提供している。旬の食材で季節を感じていただいたり希望の献立を伺い食事行事として行っている。食事後の片づけを一緒に行っている。	献立や調理は職員が交代で担当しているが、毎日、利用者の希望を聞きながら提供している。食後の片付け、茶碗、テーブル拭きなどは利用者と職員が一緒に行っている。行事食を提供している他、利用者の誕生日には好みのメニューで楽しんだり、毎年恒例の「回らない寿司」イベントは利用者に大変好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた献立を工夫している。食事量、水分量を記録している。ムセの強い利用者様にはトロミをつけている。水分量が少ない方には好みの飲み物をこまめに提供するなど工夫している。また、月に1回管理栄養士が来訪し助言及び指導をいただいている。一人で食事を摂れないときには介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけをして行っていたり、できない方は歯ブラシを手渡したり義歯洗浄を介助している。6か月に一度口腔・栄養スクリーニングを行い口腔内の状態を把握、改善の参考にしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に適時の声掛けとトイレ誘導を行っている。持っている力を把握し、できないところを介助している。自尊心を傷つけないように配慮しながら対応している。	排泄チェック表を活用し、一人一人の状況に合わせて声掛けとトイレ誘導を行っている。リハビリパンツ使用は7名、布パンツ使用が1名である。全員がトイレでの排泄となっており、機能が低下する利用者は殆どなく、やる気を引き出している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の好みに合わせた飲み物やヨーグルトを提供している。また、オリーブオイルの使用も試みている。必要に応じて下剤を使用しながら排便をコントロールしている。便秘の利用者様の下剤の使用について状況を見ながら使用量を検討し、コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる範囲で利用者の希望やタイミング、体調に合わせて入浴している。入浴中に歌や昔の話があったり、ゆったりとした時間となっている。菖蒲湯、ゆず湯などで、季節を感じていただいている。	週3回午後入浴を基本としているが、できるだけ利用者の希望やタイミングに合わせて入浴している。その日の気分で入浴しない人はいるが、基本的に拒否する利用者はいない。入浴中の職員との会話を楽しんだり菖蒲湯やゆず湯など季節湯も提供し喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせて安心して休んでいただける工夫をしている。眠れない時は、寄り添い話を聞いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のため複数の職員で声出し確認を行い、確実に服薬できるよう、利用者の状態に合わせた服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、洗濯物干しや食器洗い、食器拭き等役割の提供をしている。野菜の収穫や草取り、キーボードを引いたり歌を歌うなど、一人ひとりの嗜好を把握し提供して、やる気の出る支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援が難しいが、馴染みの場所や花見ドライブで車窓から風景を楽しまれた。また、天気の良い日には敷地内の散歩を行っている。	コロナ禍で以前のような外出支援はできないが、天候をみながらホーム敷地内の散歩を行っている。また、感染対策を講じたうえで、春には近郊の農業大学校での花見、秋には夏油高原での紅葉狩りなど楽しんでいる。ドライブや飲食は車内に限定されるが、ドライブで季節の風景を楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買い物が難しいが、買い物や希望に応じた機会を作り、金銭感覚の維持に努めたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	季節ごとのはがきを家族に書いている。本人の意思や希望に合わせ作成の支援を行っている。また、家族からの電話を取り次いでいる。電話後は穏やかな表情が見られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	干支の貼り絵や季節の花を飾り、心地よく過ごして頂くようにしている。居室にのれんを設置することでプライベート空間を設け、好きなように過ごせるよう配慮している。	ホール内には季節を感じさせるお雛様が飾られ、壁には干支の貼り絵や雛祭りの歌詞が掲示され温かい雰囲気を醸し出している。テーブルが3カ所と人気の窓際にソファが置かれ、利用者は思い思いに好きな場所に座り寛いでいる。エアコン、床暖房、加湿器で適温に管理され、快適な共用の空間を維持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	歌好きや話好き等気の合う利用者同士が同じテーブルになるよう席を配置している。また、窓際にソファスペースがあり居室、ホール、ソファスペースと思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、馴染みの物や家族写真を居室に置くことで自分の居場所として、過ごしていただいている。	居室は床暖房で、介護用ベッドやクローゼット、エアコンが備え付けとなっている。利用者は、テレビやラジオ、筆筒や衣装ケース、家族写真等を持ち込み、入口には目隠しを兼ねた長めの暖簾がかけられている。自分の部屋らしく落ち着いた雰囲気で居心地のよい空間となっている。	

令和 4 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、安全に歩行出来るようになっている。今年度は一部床の張替えを行い、居室入り口の境目は木目調で生活感のあるものに変えている。トイレの案内表示を分かりやすいように、手作りしている。		